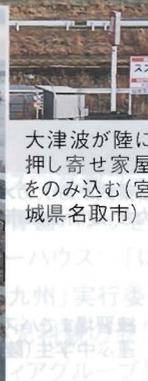


## 東日本大震災 被災地に救援金を贈呈



大津波が陸に押し寄せ家屋をのみ込む(宮城県名取市)

堤防を超え市街地に流れ込む黒い波(岩手県宮古市)

津波で海岸線一帯が水没し、炎上する住宅(宮城県名取市)

3月11日午後2時46分、東北地方を中心とする東日本の広い範囲で強い地震が発生しました。地震の規模を示すマグニチュードは9.0。その後、三陸を中心とした太平洋沿岸に大津波が襲来。逃げ惑う人々を波が飲み込み、家屋を押し流しました。安全と思って逃げ込んだ避難所で犠牲となった人もいます。

三陸地方の太平洋沿岸は壊滅状態となり、全体の死者・行方不明者は3か月たつ6月上旬で約2万4000人に迫っています。

さらに、国民を不安に陥れたのは、福島県の東京電力福島第一原子力発電所のマルチダウン(炉心溶融)です。一部の原子炉は制御不能となり、放射性物質が拡散しました。「原発の危機」は今後も続きます。

毎日新聞社と毎日新聞東京社会事業団は発生2日後から「東日本大震災救援金」を募りました。多くの方々から寄付が寄せられ、3月24日には大阪、西部の毎日新聞社会事業団とともに、救援金の第一弾として1億円を日本赤十字社に寄託しました。5月下旬にはさらに5億円を日赤に寄託し、被災地で役立てていただいています。

当事業団への寄付はこれまで、郵便振替や現金書留で受け付けておりましたが、東日本大震災に限り、4月5日から銀行振込による募金受付を始めました。三菱東京UFJ銀行東京営業部(普

通0322122)の口座名「毎日新聞東京社会事業団震災救援金」で受け付けています。紙面掲載や領収書をご希望の方は、その旨を明記し、氏名、住所、電話番号を書き、振り込み用紙の写しを添えて郵送かファクス(03-3213-6744)で当事業団へお送り下さい。

避難所で診療活動をする日本赤十字社のスタッフ



被災者支援基金、被災者生活再建支援法、被災者生活再建支援法、被災者生活再建支援法

## 災害を乗り越えて



避難所となっている小学校で始業式があり、カメラの前に集まっておどける子どもたち(陸前高田市)



配給の列に並ぶため走る男子(宮城県石巻市)



練習場までバスケットゴールを運ぶ中学生(陸前高田市)



エコノミー症候群を予防するため、避難所で体操する被災者

### 奨学金の創設と本を贈るキャンペーン

毎日新聞社と毎日新聞東京・大阪・西部社会事業団は、東日本大震災救援金とは別に、被災した青少年を支援する二つの募金を設けました。保護者を亡くした震災遺児を支える「毎日希望奨学金」制度と、被災した子どもたちに本を贈る「いっしょだよ」キャンペーンです。

#### ●「毎日希望奨学金」制度

義務教育を終えた震災遺児を対象に、高校、大学生生活を支援してまいります。給付対象者は外部の専門家による選考委員会で決めさせていただきます。返還を必要としない給付方式の奨学金制度で、2011年秋から給付をスタートし、期間は5年を予定しています。

募金は▽銀行振込＝三菱東京UFJ銀行大阪営業部(普通0257441)。口座名は「公益財団法人毎日新聞大阪社会事業団」(手数料は金融機関でご確認ください)▽「奨学金」と明記して郵便振替(00970・9・12891)▽現金書留(〒530-8251 大阪市北区梅田3の4の5、毎日新聞大阪社会事業団)のいずれかをお願いします。寄付者名を新聞で紹介し、銀行振り込みの

方で掲載や領収証をご希望の場合は、その旨を明記して住所、氏名、電話番号を書き、振込用紙の写しを添えて郵送かファクス(06-6346-8681)で大阪社会事業団へお送りください。

#### ●子どもたちに本を贈る「いっしょだよ」キャンペーン

4月から5月にかけて、被災した子どもたちに児童書を贈る運動を実施し、多くの募金が集まりました。募金は目標額に達したため終了しました。感謝申し上げます。今後は、小学校、幼稚園、保育所・園、児童館などを対象に配布先を募集します。財団法人大阪国際児童文学館の児童書の専門家が配布先の要望や子どもの年齢を考慮して本を選び、購入します。大阪府書店商業組合がそれに保護カバーをかけて発送し贈呈します。



## 第15次小児がん征圧募金 1110万円を贈呈

毎日新聞のキャンペーン「生きる」に寄せられた「小児がん征圧募金」の第15次分1110万円を、小児がんと闘う子どもたちへの支援や研究に取り組む全国23団体に贈りました。これまでの贈呈総額は2億3475万円です。

多くのアーティストにも、キャンペーンにご協力いただきました。

恒例となった森山良子さんのチャリティーコンサートは10年7月に開催しました。皇后さまもお見えになり、音楽をお楽しみになりました。会場を埋めた約1800人を前に、森山さんと共演した歌手と子どもたちが合唱し、会場は一つになりました。

女優の竹下景子さんのチャリティー公演「ごえんなごんさあと」は11月28日から12月5日にかけて、神奈川、千葉、兵庫3県の4会場で開催しました。「地方から発信し、闘病家族を励ましたい」と、08年から始まった活動です。聴衆は音楽や詩の朗読に心を癒されました。

2011年5月には、世界的に活躍するバイオリニスト・川島成道さんが東京でグランド



コンサートの最後に森山良子さんら出演した歌手と子供たちが合唱し、会場は一つになった

ファミリーコンサートを開きました。「今来ているお子さんがそのお子さんを連れてくるまで続けたい」と、ステージから語りかけました。

贈呈先は次の通り。(順不同)

そらぶちキッズキャンプ▽バンダハウスを育てる会▽NPOファミリーハウス▽スマイルオブキッズ▽がんの子供を守る会▽スマートムンストン▽難病のこども支援全国ネットワーク▽白血病研究基金を育てる会▽日本さい帯血バンクネットワーク▽東京臍帯血バンク▽メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン▽近畿小児がん研究会▽京大病院小児科ボランティアグ

ループ「にこにこトマト」▽NPO日本クリニックラウン協会▽NPOチャイルド・ケモ・ハウス▽京都ファミリーハウス▽NPOあいち骨髄バンクを支援する会▽宮崎ファミリーハウス▽「にこにこスマイルキャンペーン九州」実行委員会▽九州がんセンター小児科親の会「大きな木」▽医療ボランティアグループ「パンプキン」▽久留米大学病院小児科親の会「木曜会」▽福岡ファミリーハウス

### アーティストが募金に協力

小児がん征圧募金にご協力いただいたアーティスト。

- 【2010年】
  - 4月25日 清水康子「天使の泉」コンサート (宮城・石巻文化センター)
  - 4月30日 清水康子「天使の泉」コンサート (東京・杉並のライブハウス)
  - 5月15日 川島成道グランドファミリーコンサート (東京・新宿オペラシティ)
  - 9月12日 清水康子「天使の泉」コンサート (東京・江戸東京博物館ホール)
  - 10月17日 森山良子「昭和薬科大学創立80周年記念コンサート」 (東京・昭和薬科大学)
  - 12月23日 クラシック・ヨコハマ 佐藤しのぶさん、外山啓介さんら (横浜・みなとみらいホール)
- 【2011年】
  - 1月15日 細坪佳佳コンサート (東京・きゅりあんホール)
  - 4月25日 永井龍雲コンサート (東京・三井ホール)



竹下景子さんは花束を受け取ったあと、子どもに語りかけた

グランドファミリーコンサートで子供たちから花束を受け取った川島成道さん(右端)

第54回  
手足の不自由な  
子どものキャンプ

キャンプ場の林を抜けると、雄大な富士の下に山中湖が広がります。子どもたちはビッグカヌーに乗る準備。一人一人救命胴着を着けてもらい、揺れるカヌーにおっかなびっくり。でも、ボランティアのお兄さんに手伝ってもらってオールを漕ぎだすと、笑顔がこぼれました。

参加したのは、キャンパーと呼ばれる首都圏の小3から高3までの48人（男子25人、女子23人）の児童生徒と、サポートする大学生や社会人のキャンプリーダー32人、彼らをバックアップするスタッフや医師、看護師など総勢136人です。期間中、子どもたちとリーダーは8つのグループに分かれて、何をするにも一緒。ぎこちなかった関係も3日目ともなるとまるで家族です。

後半の2泊3日で「チャレンジキャンプ」も実施しました。外泊したことのない障害児がいきなり5泊6日の外泊は、親も子どもも不安でいっぱい。まず、キャンプの楽しさを体験してもらおう狙いです。男女9人の

手足の不自由な子どものキャンプは今年も山梨県のYMC A山中湖センターで開かれました。期間は10年8月5日から10日までの5泊6日。当事業団と日本肢体不自由児協会、東京YMCAが共催し、54回を迎えました。

野外調理はキャンプの  
楽しみの一つ



ビッグカヌーで  
湖上の夏を満喫



母の日・父の日  
募金キャンペーン

「プレゼントをあげる親がもういない」という読者の声をきっかけに2005年から始まった「母の日・父の日募金キャンペーン」。次世代を担う子どもたちへの支援にと、毎年多くの方から募金が寄せられています。10年度に、東京、大阪、西部の毎日新聞社会事業団に寄せられた募金は総額469万余円になりました。半額を「あしなが育英会」に贈り、半額を以下の団体に贈呈しました。

「交通遺児等を支援する会」「NPO法人日向ぼっこ」「社会福祉法人カリヨン子どもセンター」「全国自立援助ホーム連絡協議会」「NPO法人アン基金プロジェクト」「東京都社会福祉協議会の育英基金」「日本ファミリーホーム協議会」「交通遺児育英会」「NPO法人児童虐待防止協会」「青少年の自立を支える福岡の会自立援助ホーム・かんらん舎」



千葉県市原市の市原象の国を訪れた子供たち  
=交通遺児等を支援する会提供

そり滑り、雪だるま…楽しみました

総額55万円を贈呈

第22回

# 雪と遊ぼう! 親と子の療育キャンプ

「雪と遊ぼう!親と子の療育キャンプ」は、新潟県南魚沼市の八海山麓スキー場で11年1月8日から10日までの2泊3日で実施しました。首都圏の肢体不自由児と、その保護者に雪遊び

の楽しさを味わってもらい、子供たちには集団生活の中で協調性や自立心を、保護者には医師らと交えて療育について学んでもらおうという目的です。



ボランティアのお兄さんとそりに乗り、歓声

うさぎの雪像も上手にできて満足そう



当事業団と日本肢体不自由児協会、NHK厚生文化事業団の3者が1990年から開始し、22回目となりました。手足の不自由な小学生23人とその保護者、支援するボランティアリーダー、医師・看護師らスタッフも含む総勢101人が参加しました。雪山に歓声が響き、そり滑りにも笑い声

がはじけます。雪合戦をしたり、スノーモービルに乗って大喜びの子どもたちもいます。保護者は高さ2メートルのかまくらを作りました。保護者が子どもの世話から解放されるのもこのキャンプの特徴です。キャンプの閉会式で、父親の一人は「ボランティア

リーダーのみなさんの献身的な介助のおかげで親子ともども雪と遊び、楽しむことができました」と感謝の言葉が述べられ、ボランティアの目も涙で濡れていました。このキャンプでは、スキー場や駅、宿泊施設の方たちにも大変お世話になりました。お礼申し上げます。

## 陶芸で社会福祉に貢献

アマチュア陶芸団体「日本陶芸倶楽部」(出光昭介会長、東京都渋谷区)は毎年5月に東京・日本橋の三越本店美術特選画廊で会員チャリティー作品発表展(同倶楽部、当事業団など主催)を開き、収益金の一部を当事業団などに寄託いただいています。また、年2回、障害者を対象としたチャリティー陶芸教室を開き、社会福祉に貢献していただいています。

### 会員チャリティー作品発表展

第43回チャリティー作品発表展は2010年5月12～17日に開催し、会員322人が制作した彩り豊かな作品546点が展示されました。純益から221万円が当事業団に寄託され、肢体不自由児のキャンプなど、社会福祉に広く役立っています。これまで同倶楽部からの寄付総額は1億4000万円余となりました。2011年も5月25～30日開催し、盛況でした。



多彩な作品が並んだ作品展示会場

### チャリティー陶芸教室

「陶芸を通じて社会福祉に貢献したい」との思いから、毎年、同倶楽部は障害者を対象とした陶芸教室を開いています。10年9月14、21日には文京区の障害者通所施設「文京えんじゅの会 だるまルーム(身体障害者)」の10人を東京・原宿の工房に招待し、茶わんや皿作りを楽しみました。11年2月16日には「同会 つつじルーム(知的障害者)」に出張し、作陶教室を開きました。17人の参加者は小物入れにチャレンジし、創作の喜びを味わっていました。



作陶の楽しさに笑顔がこぼれる

## 第40回 毎日社会福祉顕彰 社会福祉の発展・向上に貢献

回SS業

社会福祉の向上に貢献した個人、団体を顕彰する2010年度・第40回毎日社会福祉顕彰(毎日新聞社会事業団主催、厚生労働省、全国社会福祉協議会後援)の贈呈式が10月18日、東京都千代田区の毎日新聞東京本社で開かれました。

団体として受賞したのは、東京都のセカンドハーベスト・ジャパン。個人は東京都の高橋昌巳さんと大阪府の宮武一郎さんでした。朝比奈豊・毎日新聞社会事業団理事長(毎日新聞社社長)が賞牌(しょうはい)と賞金100万円を贈りました。

顕彰理由は次の通りです。

### セカンドハーベスト・ジャパン

(チャールズ・E・マクジルトン理事長:  
東京都台東区)

日本における本格的フードバンクの草分け。まだ食べられる食糧が廃棄される一方で、貧困層が国内に数十万人います。フードバンクはこうした食糧を企業や農家から寄付してもらい、必要な人たちに無償で届けています。09年は560トンの食品を全国160以上の福祉施設などに配りました。

### 高橋昌巳理事長

(社会福祉法人桜雲会:  
東京都新宿区)

「あん摩、鍼灸」の医学書の点字出版や視覚障害者のための解剖図譜を作成し、教科書を点字、拡大文字、音声の3媒体で出版。平成10年から5年間、ベトナムで日本のあん摩を指導し、いまでも現地では日本式あん摩が受け継がれています。障害者のために自宅を開放し、視覚障害者教育の賢人の遺跡を訪ねるツアーも実施しています。

### 故・宮武一郎理事長

(社会福祉法人 みなと寮:  
大阪府河内長野市)

卓越した指導力を発揮し、地域の高齢者や障害者の入浴サービス、緊急一時保護など地域サービスでも実績をあげました。平成21年には、刑務所出所後に行き場のない人たちへの支援活動として、広く救護施設などでの受け入れを進めています。一貫して利用者の生活向上、社会復帰に向けて情熱を注いできました。

## 第40回 毎日社会福祉顕彰贈呈式



社会福祉顕彰を受賞した左からセカンドハーベスト・ジャパンのチャールズ・マクジルトンさん、高橋正己さん、故・宮武一郎さん

サッカーボールや  
フリスビー  
など

## 児童養護施設へのプレゼント 227カ所に

家庭の事情でクリスマスやお正月を児童養護施設で迎える子どもたちのために、当事業団は東日本の民間児童養護施設227カ所に恒例のクリスマスプレゼントを贈らせていただきました。皆様から寄せられた歳末助け合い募金を充てています。

両親の離婚や虐待などで児童養護施設に保護される子どもたちが増えています。多くの施設では定員枠を増やしたり、施設の拡充などで対応していますが、入所待ちの子どももいるのが現状です。プレゼントの対象施設も前年に比べ、7つ増えました。

プレゼントの内容は、障害者が働いている作業所が作った木製のコマをはじめ、サッカーボール、バドミントン、フリスビーなどのスポーツ遊具、スケッチブック、折り紙、クレヨン

などの文具などです。

施設からは「正月に家に帰れない子どもも多いので、助かります」「コマやたこで伝統的な遊びを教えられます」というお礼状が届きました。子供たちからもサンタのイラスト入りで「おもちゃたくさんありがとう」といった手紙や色紙がたくさん届きました。

当事業団はこれからも、こうした子供たちのささやかな力になりたいと思っています。



スポーツ用品や玩具をプレゼント



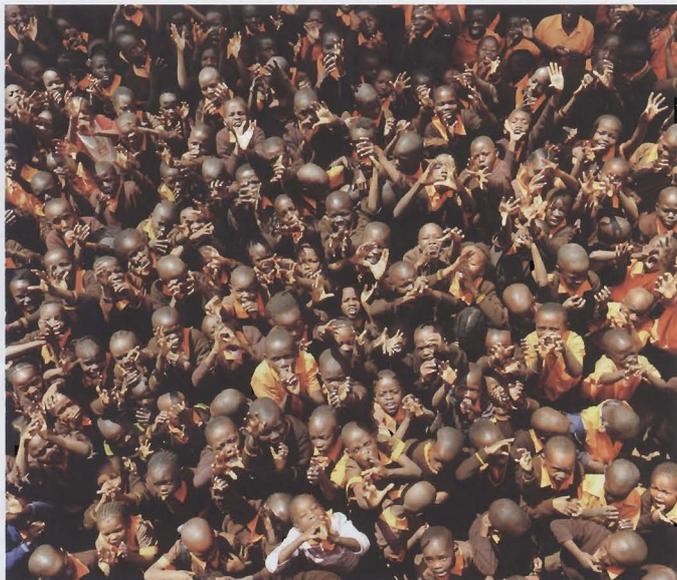
子供たちから送られた手紙やクリスマスカード

## 海外難民 救援キャンペーン

毎日新聞社と毎日新聞東京・大阪・西部社会事業団の「海外難民救援キャンペーン」は2010年、32年目を迎えました。6～7月の45日間、東アフリカ取材し、7月25日から3回、「乾きと命」と題して毎日新聞に掲載しました。

ケニアの首都ナイロビのケベラスラムで記者が目にしたのは、急激な人口増加の現状と不衛生な環境で生きる子どもたちの姿でした。ケニアの人口増加率は年2.6%。干ばつの影響で地方からの流入が止まらず、スラム内の人口は100万人を超えたとも。

ある産院では一カ月で約160人の新生児が生まれます。スタッフの女性が言いました。「子どもが増えることで、より貧しくなる悲しい側面はある。でも、私は止められない。出産はケニアの女性にとって誇りであり、喜びだから」



学校の中庭で声を張り上げて踊る子どもたち。厳しい環境で暮らす子どもが多い



敗血症でやせ細った赤ちゃん。大きな瞳が空(く)を見つめた

### 2010年度 海外難民救援金贈呈団体 (順不同)

**日本ユニセフ協会** すべての子どもたちが健康に、平和な世界で暮らせるようにと政治危機や紛争などで苦難を強いられている人々、とりわけ女性と子供に対して医療、食糧などの支援や教育の普及支援を実施している。

**国連UNHCR協会** 世界では3千万人々が難民や国内避難民になり、困難な生活を強いられている。こうした難民を保護し、食糧支援、自立支援や子供の教育支援をしている。

**国連世界食糧計画WFP協会** 世界では飢饉や病気で毎日1万4千人もの子供が命を落としている。約80カ国において8600万人に330万トンの食糧支援をしている。

**スリランカ子供基金パウラ** スリランカの子供たちのために、幼稚園、職業訓練所、孤児院の建設と小～大学生の一部に奨学金を授与。

**AMDA** 世界各地の自然災害発生地で緊急医療活動をしている。ネパール子ども病院への医師、看護師の派遣、医薬品、医療機器の支援をしている。

**アフリカ友の会** 中央アフリカ共和国でエイズの治療と感染拡大防止に取り組んでいる。

**幼い難民を考える会** 復興を目指すカンボジアで子どもたちが安心して暮らせる環境づくりと女性の自立支援活動に取り組んでいる。

**長崎大学熱帯医学研究所** 熱帯医学と国際保健の先導的研究をし、熱帯病の防止や健康増進の専門家を育成。

**国境なき医師団** 難民キャンプや紛争・被災地域で医療活動を実施している。

**シェア(国際保健協力市民の会)** タイ東北部のケマラートでエイズの予防教育やキャンペーンを展開。差別と偏見のない村づくり活動をしている。

**JEN** スーダンやアフガニスタンなど紛争や自然災害で厳しい状況にある地域で給水設備や衛生施設、学校の建設に取り組んでいる。

**シャンティ国際ボランティア会** カンボジアやタイで子どもたちに人材育成活動や学校建設活動に取り組んでいる。

**全国社会福祉協議会** アジア諸国の孤児や貧しい人々への支援活動を実施している。

**マイシャ・ヤラハ基金** ケニアの貧しい子ども達への給食や医療費を支援。奨学金も出している。

**フレバルス産院** ケニア・ナイロビの産院。毎月160人が生まれ、人口増加で貧しさが増すことを知りながら、懸命な医療を施している。

**AAR(難民を助ける会)** カンボジアやアンゴラ、スーダンなどで未だに埋まっている地雷の除去や地雷回避教育、地域保健医療に取り組んでいる。

**JVC(日本国際ボランティアセンター)** バレスチナやスーダンなどで医療、食糧支援活動を実施。ラオスや南アフリカなどでは自然農業による地域開発を支援している。

**バレスチナ子どものキャンペーン** バレスチナ・ガザ地区とレバノンの難民キャンプで医療支援や母子のカウンセリング、食糧支援活動をしている。

**バーンロムサイ** タイのチェンマイ近郊で、エイズで親を亡くした子どもや母子感染している子どもたちのための生活施設を運営している。

**ピースウィンズ・ジャパン** アフガニスタン北部の干ばつ地域で飲料水や農業用水の確保、水資源の管理・活用のための調査活動をしている。

**ベジャワール会** パキスタンとアフガニスタンに診療所を開設し、アフガニスタン難民に医療支援を実施。緑化事業として灌漑水路の建設や井戸の掘削に取り組んでいる。

**マハム二母子寮** 独立後間もないバングラデシュで日本人僧侶により生活に苦しむ未亡人と子どもたちの生活・就学支援の母子寮が作られた。現在も約100人の子どもが生活し、学校に通っている。

**緑のサヘル** アフリカ・チャドとブルキナファソで緑が急速に失われている地域の砂漠化防止のための植林事業を実施し、住民が定住できる環境づくりに取り組んでいる。

**ワールド・ビジョン・ジャパン** アジアやアフリカで性的搾取を受けたり、危険な場所で働き、路上生活をする子どもたち、障害のために差別される子どもたち、難民キャンプで暮らす子どもたちへの支援活動をしている。

**シエラレオネフレンズ** アフリカ・シエラレオネにおいて、将来を担う子どもたちへの学校教育や給食を支援している。

**ネパール・ヨードを支える会** ネパール・ヒマラヤ山麓の農村地帯の風土病である「ヨード欠乏症」対策に取り組む。

**クリスト・ロア宣教修道女会** ハイチで結核患者の治療を続ける日本人修道女の医師、須藤昭子さん(82)が、日本で被災者支援を呼びかけている。

**ジャパンハート** ミャンマー、カンボジアでの医療支援活動をしている。

**ハイチ友の会** ハイチ共和国の雇用創出と教育環境の整備をし、地震からの復興に寄与している。

**石田勝子を励ます会** コンゴ民主共和国ニャンクンデ福音医療センターで活動する石田勝子さんを支援している。

**テラルレックス** コンゴ民主共和国で元子ども兵士の社会復帰を支援している。

**難民支援協会** 様々な理由から自分の生命を守るために自国から避難して日本にのがれて来た人々のための支援活動をしている。

総額 ¥19,400,000円

慶應大学医学部などの4サークル  
地域医療研究・実習への助成

大学医学部、医科大学の学生研究サークルが主に夏休みを利用して地域医療研究や実習を目的に訪問診療、保健指導、介護施設実習をするボランティア活動に対し、10年度も四つの大学のサークルに助成しました。高齢化が進み、地域医療のニーズは高まっています。学生たちの地域医療への認識が高まることを期待し、支援を続けています。

▽慶應大学医学部医事振興会

10年8月15日から21日まで、山梨県甲州市で学生85人が訪問診療、看護、介護の実習のほか、作業所での支援活動や健康教育を実施しました。

▽東京慈恵会医大疫学研究会

10年11月、茨城県常陸太田市で医師6人、学生12人が参加し、地域の住民を対象に保健指導と検診データの分析をしました。

▽東京女子医大地域保健研究会

10年7月26日から8月27日までの3回、学生12人が大分県姫島村で地域保健、医療の実態を学ぶため、診療所や往診、訪問看護を見学しました。

▽松本歯科大学地域医療研究会

年間を通して歯科医師と学生が各7人前後で長野県内の重度障害者施設などを訪問し、歯の健康診断、予防処置、簡

単な治療をしています。



グループホームで手拍子を取りながら音楽療法に取り組む慶応大医学部の学生(山梨県甲州市)

第34回 高齢社会に生きる  
ボランティア実践講座

高齢者が高齢者を支える超高齢化社会を迎え、我々はどう生き、ボランティアとして何ができるのか——講師陣の講義と福祉現場での体験学習を通じて高齢社会を支えるボランティア活動のあり方、手掛かりを学ぶのが実践講座。この講座は'77年に杉並区の社会福祉法人「浴風会」でスタートし、4回目の'80年から毎年八王子市で開催しています。「福祉」に力を入れていた同市の要請を受けて、八王子市社会福祉協議会との共催で続けております。

今回は'10年9月15日から29日までの3回の講座に延べ60人ほどのボランティアが参加しました。

その他の主催・助成事業

当事業団は、2010年度も社会福祉のさまざまな分野で活動しました。その他の主催事業と後援・助成事業は次の通りです。

■その他の主催事業

- ◇第79回全国盲学校弁論大会
- ◇第47回点字毎日文化賞
- ◇声の点字毎日の製作、寄贈

■後援・助成事業

【東京ヘレン・ケラー協会への助成】

- ◇点字図書館への助成
- ◇ヘレン・ケラー学院事業への助成
- ◇ヘレン・ケラー記念音楽コンクールへの助成
- ◇海外盲人交流事業への助成

【障害者福祉事業】

- ◇わらじの会夏合宿への助成
- ◇第35回わたぼうし音楽祭の後援と助成
- ◇第39回日本車椅子バスケットボール選手権大会の後援と助成
- ◇第29回肢体不自由児・者の美術展の後援と助成
- ◇第4回全国聾社会人野球TDリーグ大会の後援と賞品贈呈
- ◇第59回関東聾学校野球大会・卓球大会の後援と助成
- ◇第21回日本ブラインドテニス大会の後援と助成
- ◇中途失聴・難聴者のための「読話学習DVD」普及活動への助成

【児童福祉事業】

- ◇平成22年度江戸っ子杯の共催と助成
- ◇交通遺児等を支援する会への助成

【その他の社会福祉事業】

- ◇第28回福祉閉基東京大会の後援と参加賞贈呈
- ◇いのちの電話への助成
- ◇路上生活者への支援
- ◇アルコール依存症者の回復支援
- ◇非正規雇用労働者らへの支援

ご寄付の方法について

毎日新聞東京社会事業団のさまざまな活動は、皆様からのご寄付によって支えられています。ご寄付の方法は以下の通りです。

●郵便局でのお振り込み

郵便局に備え付けの払込取扱票(振替用紙)に金額、住所・氏名などの必要事項をご記入のうえ、お振り込みください。送料無料の払込取扱票(振替用紙)をご希望の方は当事業団にご請求ください。

【口座番号】00120-0-76498

【加入者(送り先)】毎日新聞東京社会事業団

●現金書留でも受けつけています。

※「寄付名」を通信欄に必ずお書きください。  
※金額とお名前を毎日新聞の地域面に掲載させていただきます。匿名を希望される方は通信欄に「匿名」とお書きください。

●銀行でのお振り込み

【銀行名】りそな銀行東京営業部

【口座番号】当座預金 1105420

【口座名義】毎日新聞東京社会事業団

※銀行振り込みによるご寄付の場合は「寄付名」「住所・氏名」などを電話かFAXなどで必ずご連絡ください。

●お問い合わせ先

毎日新聞東京社会事業団  
〒100-8051 東京都千代田区一ツ橋1-1-1  
電話＝03-3213-2674  
FAX＝03-3213-6744  
E-Mail＝mai-swrf@fine.ocn.ne.jp  
ホームページ＝http://www.mainichi.co.jp/shakaijigyo/

書き損じのハガキ・未使用の切手を寄付してください

宛名を間違えたりして使えなくなったハガキやあまった年賀ハガキ、引き出しに眠ったままの未

使用の切手を寄付してください。書き損じのハガキや未使用の切手は、郵便局で手数料を差し引いて、新しいハガキや切手に交換してくれます。毎日新聞東京社会事業団では、通信用として使わせていただきますが、通信費が節約できた分を社会福祉事業に活用させていただきます。

個人情報について

当団へのご寄付に際して、知り得た皆様の個人情報は、当団からの領収証、お知らせなどの送付や問い合わせなどに使用させていただきます。それ以外には承諾なしに使用いたしません。